



「健康長寿のまち」の実現に向けた 計画素案について

保健福祉長寿局

「健康長寿のまち」に関する計画の策定方針

静岡市の特性

- ①豊かで充実した生活環境
- ②盛んな地域活動
- ③元気な高齢者が多く生活
- ④小圏域における多職種による在宅医療・介護連携

静岡市の今後の課題

- ①健康に過ごすための予防・健康づくりへの取組の強化
- ②人生を楽しむことができる選択肢の充実
- ③「自宅ですっと」安心して暮らせる体制の整備

団塊の世代が75歳となる2025年を見据え、各年齢層に必要な健康づくりや介護予防、更には体制整備等の対応を、計画的に行うことが急務

⇒「健康長寿のまちづくり計画」を策定し、市を挙げて総合的に施策を実施することにより、5大構想に掲げる「健康長寿のまち」を実現

計画策定方針

○健康長寿のまちづくり計画は、次の点を踏まえて策定

- ①高齢者のみならず、全世代通じた健康長寿に向けた対応を図る観点に立つこと
- ②問題が生じた際に行う支援に加え、問題が発生する前からの未然の対応（予防）を重視する観点到立つこと
- ③健康長寿に向け、市民の自主的な取組の促進や地域での支え合い、必要とする方への専門的な支援など、総合的な支援体制の整備を図っていくこと

基本目標

市民が、できる限り、健康で人生を楽しむことができ、住み慣れた「自宅ですっと」、自分らしく暮らすことができるまちを実現する。

施策方針

① 「健康長寿世界一の都市」の実現

○ 市民の健康度を見える化し、健康意識を高めるとともに、家康公の健康長寿の秘訣と言われる“知”[社会参加]、“食”[食事]、“体”[運動]を軸とした取組を進めることにより、市民一人ひとりが自らの健康を意識し、自然に健康長寿を実現できるまちを目指す。[健康寿命75歳を目標(第3次静岡市総合計画最終年の平成34(2022)年)]

② 「『自宅ですっと』プロジェクト」による静岡型地域包括ケアシステムの構築

○ 本人や家族の希望に応じて、住み慣れた場所、特に自宅ですっと安心して暮らせるまちを実現するため、医療・介護の専門職や地域の市民の連携により、切れ目のない支援体制を身近な小圏域で構築するとともに、市民に積極的に情報発信することで、地域に根差した「静岡型地域包括ケアシステム」の構築を目指す。[自宅看取り率30%を目標(平成37(2025)年)]

⇒具体的には、「富士山型」で構成される各分野の取組を進めていく

計画期間

- 団塊の世代が75歳以上となる平成37(2025)年を見据えたものとする。
- 本市第3次総合計画・5大構想(平成27~34年度)に基づき事業展開を図るため、平成30~34年度までの5年間とする。
- 3年目の平成32年度を目途に中間的な見直しを行うなどローリングを図っていく。

これらにより、現在においても将来においても元気な高齢者となる方を増やすとともに、必要な方には専門的な支援が受けられるようにすることで、「健康長寿のまち」を実現。その結果、

- ① どの世代も生き活きと安心して過ごせる魅力的なまちを実現
- ② 魅力を高めることにより、急速に進む高齢化や人口減少の流れにも対応
- ③ 今後日本の他の都市で深刻化する高齢化や人口減少に対応する、健康長寿のまちづくりのモデルとして全国発信

計画素案概要 健康長寿のまちづくりの全体像

「静岡型地域包括ケアシステムの構築」
「自宅ですっと」プロジェクト

「健康長寿世界一の都市」の実現



市民

3. 医療・介護の専門職の連携による支援 【山頂】



2. 市民の連携による地域での支え合い体制の整備 【山腹】



1. 市民の自主的な健康長寿の取組の促進（見える化と、「知・食・体」の取組） 【裾野】



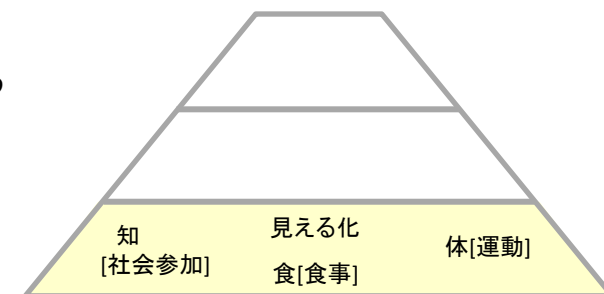
平成29年度の主な取組

医療・介護	「自宅ですっと」在宅医療・介護連携推進事業
	医療・介護・福祉スーパーバイザー人材配置事業
地域支え合い	生活支援コーディネーターと地域づくり会議
	S型デイサービス
	しぞ〜かでん伝体操
	「健康寿命世界一」市民チャレンジ事業
	新総合事業（介護予防・日常生活支援総合事業）への移行
	認知症カフェ普及促進事業
健康寿命の延伸	元気いきいき！シニアサポーター事業
	健康度見える化事業
	「フレイルチェック」モデル事業
	健診・がん検診事業
	元気いきいき！シニアサポーター事業（再掲）
	生涯活躍のまち静岡（CCRC）推進事業
	地域支え合い人材養成講座（しぞおかシブスシカレッジこ・こ・に）
	しぞおか「カラダにeat75」事業
	清水区魅力づくり事業（仮称）「100通りの健康レシピ」
	路上喫煙被害等防止事業
運動	歩きやすいまち（静岡都心地区交通適正化事業）
	自転車を利用しやすいまち（自転車利用計画推進事業）（自転車走行空間ネットワーク整備事業）
	スポーツイベントの実施、ホームタウンチームを活かしたまちづくり

※平成30年度以降の取組については現在検討中

計画素案概要 「裾野」(市民の自主的な健康長寿の取組の促進)

- 健康長寿のまちを実現するための大前提として、世代問わず、市民一人ひとりが健康に対する意識を高め、自主的に健康づくりに取り組むことが不可欠。
- 市としては、健康の維持を市民の自己責任に委ねるのではなく、市民の自主性を促すよう取り組むことが重要。
- 元々健康に関心のある人だけでなく、健康に関心のない人に対しても、「見える化」による健康づくりへの動機づけや、各施策で健康づくりに向けた障壁を取り払うよう工夫。



⇒市民全体に対して「裾野」のごとく広がりをもって、自らの健康づくりを促進

1. 見える化

特に中高年期まではメタボリックシンドロームに、高齢期においてはフレイル(虚弱)にならないよう、市民一人ひとりが健康意識を持つことを促進



- ・特定健診等のデータ分析による地域の健康課題等の見える化
- ・個人の健康年齢の見える化
- ・高齢者の健康(虚弱度)チェックの実施
- ・市内の各健康イベント開催状況等の見える化
- ・がん教育推進事業 等

2. 知[社会参加]

高齢者をはじめとする市民が、就労、ボランティア活動、生涯学習等の社会活動を行う機会を提供する環境を整備し、生涯にわたる自己実現、生きがいづくりを応援



- ・生涯活躍のまち静岡推進事業(CCRC)の実施
- ・高齢者の社会参加の推進イベントの開催(静岡ハッピーシニアライフ事業)
- ・「しずおかシチズンカレッジこ・こ・に」で地域リーダー養成等
- ・高齢者の就労促進に向けて、関係者間で課題分析・対策検討を行う場の設置

3. 食[食事]

生活習慣病の予防や、加齢に伴う低栄養予防の観点からも、栄養バランスのとれた食事をとることを促進



- ・生活習慣病予防や低栄養予防等、対象にあわせた食事のポイントを、講話と調理実習を通して学習する教室の開催
- ・大学生と連携した健康メニューの開発や食育イベントの開催(しずおか「カラダにeat75」事業)
- ・歯と口における食べる機能の維持・向上のための相談支援
- ・小中学校やこども園等での必要な栄養バランスのとれた給食の提供 等

4. 体[運動]

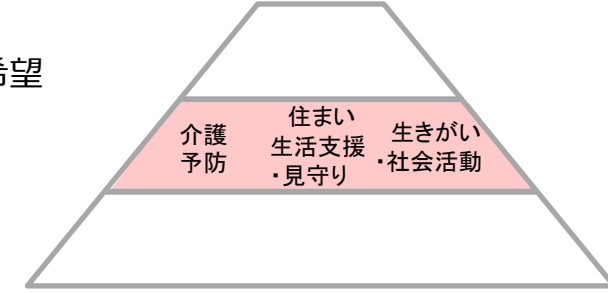
運動しやすいまちづくりを行い、日常的に無理なく運動を取り入れることを促進。また、身体機能が低下しても、自立した日常生活や社会生活を送ることができるまちづくりに取り組む。



- ・駿府城ラン・アンド・リフレッシュステーションの整備運営
- ・自転車利用促進や自転車利用環境の整備推進
- ・スポーツイベントの実施、サッカー・野球やホームタウンチームを活かしたまちづくり
- ・バリアフリーによる高齢者等誰もが利用しやすい環境の整備 等

計画素案概要 「山腹」(地域の市民の連携による地域での支え合い)

- 地域の課題は、その地域に住む住民が最もよく理解しており、それぞれが「支える側」にも「支えられる側」にもなるなど、地域住民同士協力し合うことが重要。
- 近年増加しているひとり暮らし高齢者世帯に対しても、地域で声かけを行うとともに、希望に応じて地域活動への参加を促すことは、孤立化防止の観点からも重要。
- 同じ状況に置かれていたり同じ経験をしている人同士の支え合いや、NPOや民間企業による市民活動等への支援も、今日では欠かすことのできない支え。



⇒健康長寿のまちづくりの中核を成す「山腹」として、地域での支え合いの取組を支援

1. 介護予防

介護予防への意識を高めるとともに、高齢者のニーズに応じて参加できる活動の場を設けるなど、地域全体で市民主体の介護予防活動を展開



- ・地区社協が中心となり地域のボランティアで運営されるS型デイサービスに係る活動支援
- ・しぞ〜かでん伝体操など自主活動グループの活動基盤の強化支援
- ・フレイル(虚弱)や転倒の予防等に関する講演会の開催 等

2. 生活支援・見守り

日常生活支援や見守り等について、関係機関、ボランティア、NPO、民間企業等地域の多様な主体によるサポートにより、地域の支え合いを促進



- ・各地域における生活支援コーディネーターの配置及び協議体の設置
- ・ひとり暮らし高齢者世帯の自宅に緊急救命通報装置等を設置
- ・認知症の人やその家族を支える認知症サポーターの養成
- ・成年後見制度の利用促進 等

3. 生きがい・社会活動

高齢者がそれぞれの経験や能力を活かして、地域の支え合い活動に支える側として参加し、地域で役割を担うことを通じて、自らの生きがいとしても活躍できる環境を整備



- ・介護施設等でボランティア活動を行った場合にポイントを付与し、静岡市の地場産品と交換(元気いきいき！シニアサポーター事業)
- ・地域の支え合い活動の担い手となるリーダーの養成講座や、ボランティア参加のための入門講座の開催 等

4. 住まい

高齢者がそれぞれの状態に応じて、医療・介護サービス等を受けながら安心して生活できる住まいの確保を、民間企業等の活力を活用しながら促進



- ・高齢者が必要な福祉サービスの提供を受けられるサービス付き高齢者向け住宅の整備促進
- ・在宅での日常生活に支障がある介護認定を受けた高齢者が、手すりの取付や段差の解消などの住宅改修を行う費用の一部補助
- ・市営住宅への入居支援 等

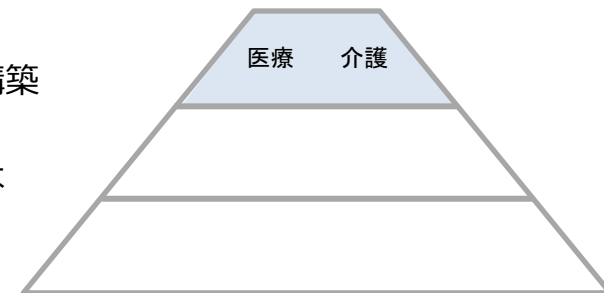
計画素案概要 「山頂」(医療・介護の専門職の連携による支援)

○静岡県内の二次医療圏の一つである静岡医療圏は、静岡市域のみで構成されており、市として医療・介護の連携体制をつくりやすい環境。

○本市の特徴を活かした小圏域(小学校区程度)における医療・介護専門職の連携体制の構築も着実に進んでいる状況。

○医療と介護は保険制度が異なることや、多職種間の相互理解や情報共有がいまだ十分ではないため、地域の医療・介護関係者の協力を得ながら一層の連携体制を構築する必要。

⇒市民が安心して地域で過ごせるよう、必要なときに「山頂」に登り、身近な地域で専門的な支援が適切に受けられる体制を整備



在宅医療・介護の専門職の連携

医療や介護の専門職による支援を必要とする高齢者が、住み慣れた地域で自分らしく最期まで暮らし続けることができるよう、日常の療養支援や退院支援、看取りなど、在宅医療と介護に係る専門職の連携強化を促進

・小学校区程度の地域において、医療・介護等の専門職からなるチームによる「自宅ですつと」ミーティングを重ね、地域の現状、課題等を把握・検討し地域での支援体制を構築



平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度
6小学校区+2圏域(モデル)	8圏域(31小学校区) 8小学校区(モデル)	16圏域(43小学校区) 8小学校区(モデル)	24圏域(67小学校区程度) 6小学校区(モデル)	全圏域(30圏域)(87小学校区)

* 圏域とは日常生活圏域のこと

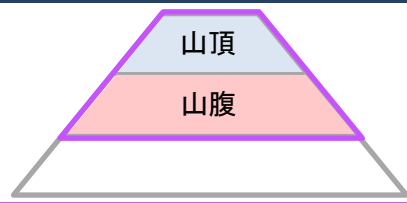
市内の全圏域における医療・介護連携支援体制を確立・充実



- ・病院や地域包括支援センター等に対して、かかりつけ医の紹介や介護サービスの手配等に関する助言、関係機関との調整などを行うスーパーバイザーの配置
- ・認知症が疑われる人や認知症の人及びその家族に、医療・保健・福祉等の専門職で構成されたチームが早期に関わり、アセスメントや家族支援などの初期支援を包括的、集中的に実施
- ・認知症サポート医の全圏域への配置、かかりつけ医・地域包括支援センター・介護サービス事業者との調整を行う認知症地域支援推進員の配置、専門医療機関の認知症疾患医療センターと連携した医療の提供 等

※その他、保健医療計画や介護保険事業計画としての記載内容(提供体制やサービス量の見込み、報酬体系等)も考慮

計画素案概要 3つの重点プロジェクト(分野横断的なプロジェクト)



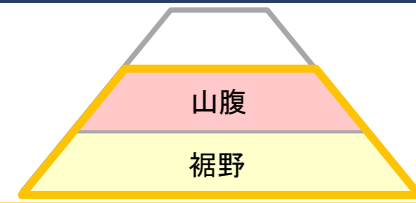
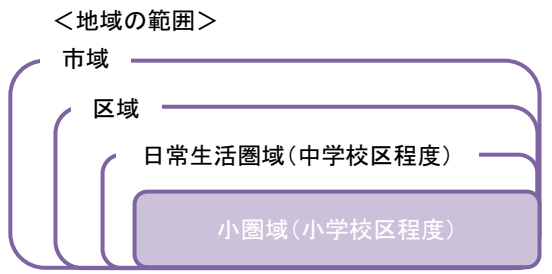
①「自宅ですっと」プロジェクト (顔の見える小圏域での取組拡大)

「山頂」の在宅医療・介護連携の取組を一層強化し、すべての小圏域(小学校区程度)で、専門職による支援体制を整備

- ・在宅医療・介護連携推進事業
- ・地域で多職種協働を進める場である地域ケア会議の推進

併せて、「山腹」部分についても、すべての小圏域(小学校区程度)で、地域の支え合いの体制を整備

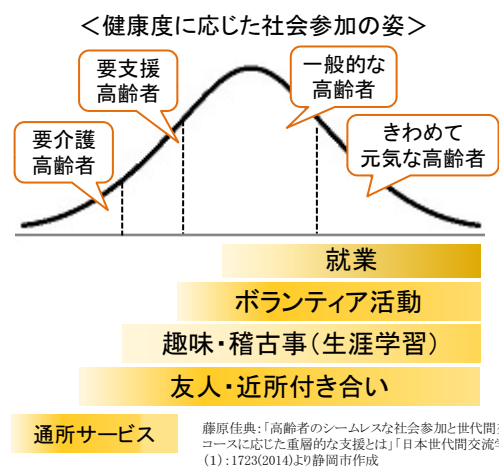
- ・地域包括支援センターの機能強化
- ・各地域(小学校区程度)を支える生活支援コーディネーターの配置
- ・地域の関係者による情報共有、連携・協働の場となる地域づくり会議の設置 等



②健康度等に応じた社会参加促進プロジェクト

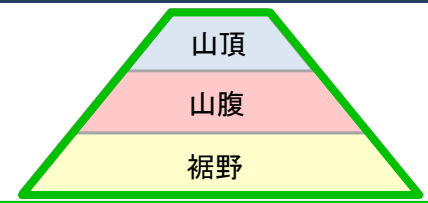
それぞれの健康度や希望、ライフスタイルに応じた生涯学習、ボランティア活動、就業等の機会を提供

- ・生涯活躍のまち静岡(CCRC)推進事業
- ・高齢者の社会参加の推進イベント開催(ハッピーシニアライフ事業)



特に、就労を希望する高齢者が生涯現役で働き活躍することができる環境を整備

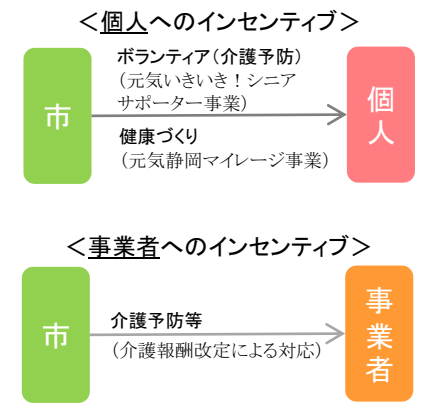
- ・高齢者の就労促進に向けて、関係者間で課題分析・対策検討を行う場の設置・開催 等



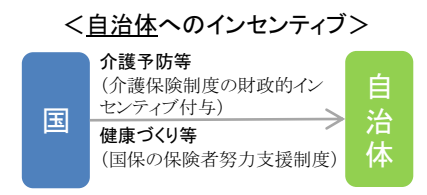
③インセンティブ(動機づけ)による意欲向上プロジェクト

努力する市民や事業者が報われ、より一層健康づくりや介護予防等への意欲を促すような取組を実施

- ・元気いきいき!シニアサポーター事業
- ・元気静岡マイレージ事業



また、国保や介護保険の制度におけるインセンティブの取組に積極的に取り組む



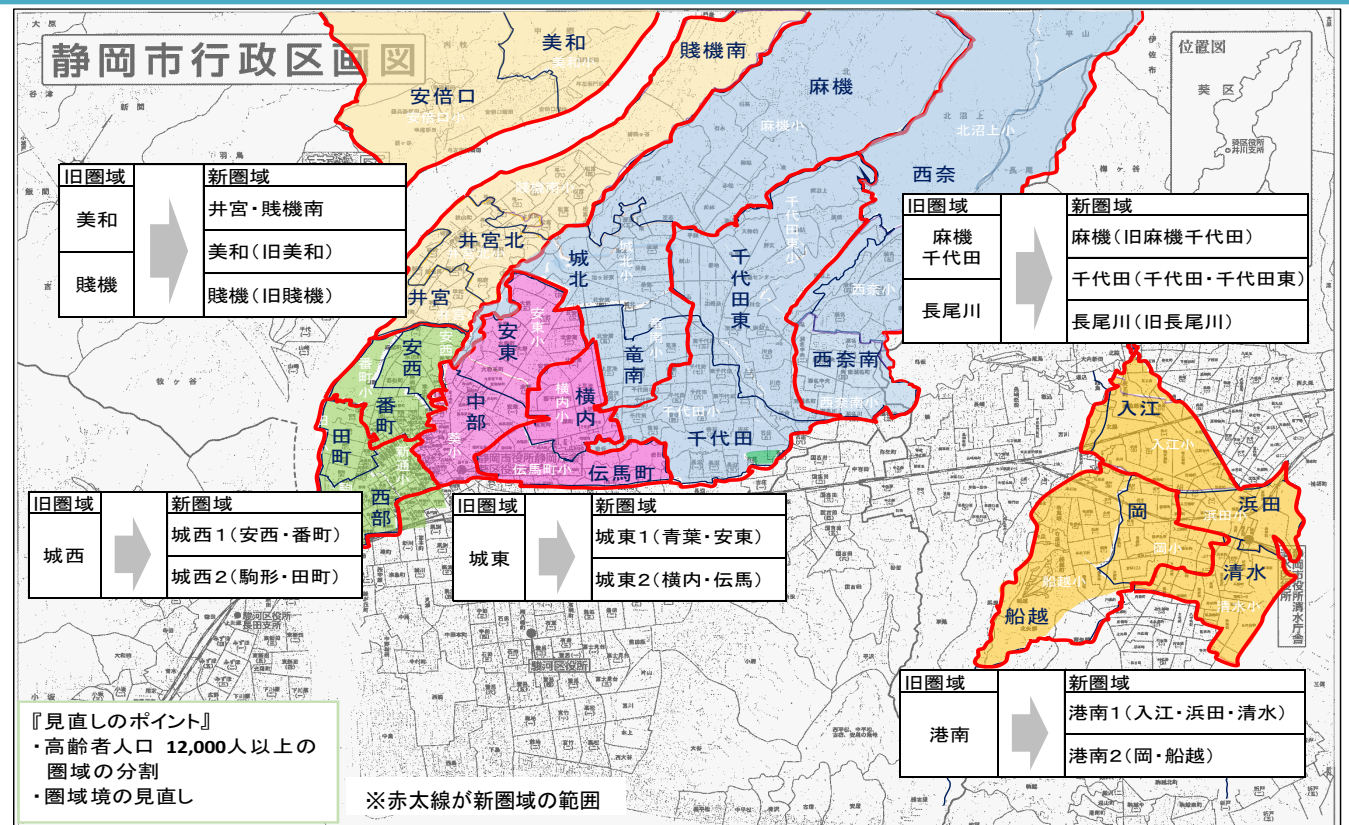
計画素案概要 「健康長寿のまち」に向けた地域体制整備

地域単位の体制整備の考え方

- 「山頂」「山腹」における静岡型地域包括ケアシステムの構築を進め、きめ細かな支援を行う上では、市域単位ではなく、**市民に身近な地域単位での体制整備を図ることが必要**
- このため、本市では、顔の見える小圏域（小学校区程度）での体制整備を進めており、引き続き取組を拡大・充実していく
- なお、介護保険制度に基づくものとして、地域包括支援センターを中心に、高齢者の介護や生活の相談等に対応するため、**現在25の日常生活圏域（※）を設定**
 ※地理的条件、人口、交通事情等の社会的条件、介護給付等対象サービス提供施設の整備状況等を総合的に勘案して設定

日常生活圏域等の見直し案

- 市内の高齢者の増加等を踏まえ、より身近な地域できめ細かなサービスが受けられるよう、**日常生活圏域を見直し**
- 具体的には、平成30年度から、**大規模な日常生活圏域等を分割・再編（25圏域 → 30圏域）**
 ※新圏域名については仮称
- これに伴い、地域包括支援センターも、引き続き圏域ごとに設置する方針
- なお、「地域包括支援センター」の名称について、今後市民に親しみのあるものとすることを検討



計画素案概要 持続可能な介護保険制度の実現

第7期（平成30～32年度）の介護サービス見込み量の考え方

<第6期（平成27～29年度）の現状・課題>

【静岡市の高齢者の状況】

- ・団塊の世代が65歳以上となり、高齢者数は増加。特に後期高齢者（75歳以上）の割合が年1%増加。
※高齢化率（H27:28.1% → H29:29.3%）

【施設サービスの利用】

- ・要介護3以上の割合が増加し、より重度化。
- ・介護老人福祉施設の待機者は年々減少傾向。

【在宅サービスの利用】

- ・軽度の利用は、ほぼ「通所介護・訪問介護・通所リハ」。
- ・中度の利用は、「居宅療養管理指導・短期入所・訪問看護」が増加。
- ・重度の利用は「訪問系」（特に居宅療養管理指導・訪問看護などの医療系）が増加。
- ・在宅での重度者を支えるため、多様なサービスの組み合わせが必要。
- ・高齢者の増加に伴い、日常生活圏域でのよりきめ細かなサービス提供が必要。
- ・医療・介護両方のニーズを併せ持つ利用者の増加が見込まれる。



<第7期のサービス見込み量の考え方>

【施設サービス】

- ・重度者の利用する介護老人福祉施設について、**待機者の推移**を考慮。
- ・介護老人保健施設について、看護、医学的ケアとともに、**在宅復帰に向けた機能訓練等の実施**を重視。

【在宅サービス①（地域密着型サービス）】

- ・住み慣れた日常生活圏域で可能な限り生活が送れるよう考慮。
- ・在宅の重度者を支えるため、サービスを随時必要に応じて組み合わせ提供できる、**小規模多機能型居宅介護**、**看護小規模多機能型居宅介護**などのサービス量を見込む。

【在宅サービス②（居宅サービス）】

- ・介護する家族の負担軽減のため、**短期入所**サービスの量を見込む。
- ・医療・介護両方のニーズに対応できる**居宅療養管理指導**、**訪問看護**などのサービス量を見込む。
- ・中度者向けのサービスとして、**特定施設入居者生活介護**などを見込む。また、**在宅の利用者が多様な居宅サービスを利用できる**よう考慮。
- ・軽度者向けのサービスとして、在宅での生活能力を向上させる**通所リハビリテーション**などを見込む。

サービス量確保等のための方策

- ・利用者がサービスを自由に選択できるよう、以下を実施。
 - ①介護サービスの基盤整備
 - ②利用者の立場に立ったサービスの質向上
- ・介護保険サービスの給付適正化の実施。

保険料基準額の見通し

上記のサービス見込み量の考え方により、必要となる介護保険料を設定
（現在：月額5,267円） → **次期：5,300円～5,600円程度**

今後のスケジュール（案）

【骨子案提示】 ※実施済

7月27日（木） 高齢者保健福祉・介護保険合同専門分科会
7月31日（月） 3区でタウンミーティングを開催
～8月2日（水）

【素案提示】

11月13日（月） 高齢者保健福祉・介護保険合同専門分科会
11月16日（木） 健康福祉審議会
11月下旬 パブリックコメント実施
～12月下旬

【案提示】

2月頃 高齢者保健福祉・介護保険合同専門分科会
健康福祉審議会

3月頃

公表